



2017/9/24・第5回京都府合気道連盟講習会・演武会、少年部合同稽古(京都市武道センター旧武徳殿)

## 理事長よりご挨拶とお見舞い

異常気象の続く中、西日本を襲った大水害の報に接し、被害を受けた方々には、心よりお見舞いを申し上げます。特に甚大な被害を強いられた 広島、岡山の被災者の方々には、1日も早い生活の再建を祈念いたします。

京都府も避難警報が 広域で発令され、避難指示を受けた方々もおられました。住宅浸水被害も約2500棟に及び、またお亡くなりになられた方も5名、という悲劇になってしまいました。この度の京都府内での大雨水害に関しては、植芝守央道主より丁寧なお見舞いのお言葉を頂戴していることを皆様にご報告しておきます。

猛暑も年ごとに暑さの度合いが増しているようです。しかし、道場には「どんなに暑くても、またどんなに寒くても」稽古に集中をしたい方々が集まってきてくれるのは、皆様も経験しておられるある種の喜心のようにも思います。「稽古が出来る」環境に感謝しつつ、毎日精進していきたいと思っております。

9月9日に行われる第6回府連大会も、厳しい残暑の中での開催となることが予想されます。皆様もご無理のないように夏をお過ごしの上、菅原師範のご指導のもと「合気」の原点に立ち返り、全道場でお互いに励まし合い、磨き合い、まさに切磋琢磨を実践しているようではありませんか。

平成30年7月末日 京都市にて 岡本洋子

## Report

### 平成30年度・全日本合気道連盟定時評議員会報告

日時：平成30年5月25日(金)

会場：日本教育会館

会議概要：平成29年度、事業／会計報告、及び編成30年度の主な事業計画。

参考事項として

- ①第16回全日本合気道連盟、道主特別講習会(10/30) 青森県総合運動公園にて
- ②第6回全国合気道指導者研修会(11/2~11/4) 日本武道館研修センター(千葉県勝浦市)
- ③全日本合気道連盟ホームページが一般公開。 <http://jafaikido.jp>
- ④新刊図書のご案内：植芝守央道主 著 『合気道 稽古とこころ』：新刊書コーナーを参照ください。

このレポートは、武道センター道場の佐藤和夫先生によって提出頂いた資料をもとに、事務局が編集しました。

佐藤先生には平成28年度より3年間に渡り、京都府代表で全日本合気道連盟評議員会に出席頂きました。ありがとうございました。

京都府合気道連盟に加盟されている道場の活動や特色などを、各道場の門下生の皆さんにご紹介いたします。今回は登り助育センター道場と、合気道吉照塾の2道場です。



25周年記念演武大会にて



七良浴大吉師範

### ●梅村勝巳(登り助育センター道場)

当道場は、昭和57年11月、京都府合気道連盟会長である坂根弘基師範の指導のもと、京都市伏見区醍醐に久心館道場として出発しました。開設当初、数人だった道場生は順調に増えてきましたが、10年目を迎えた平成4年に施設が閉鎖することとなりました。そのため、平成4年9月に現在の宇治市木幡の「登り助育センター」に移転することとなり、登り助育センター道場が開設されました。昨年の平成29年には、道場設立25周年を迎えましたので、平成29年11月5日に記念行事を開催しました。今回はその内容を中心に紹介します。

記念行事は大きく分けて、演武大会、式典、文集作成の三部構成となります。まず、演武大会ですが、来賓に伊藤義明館主(当施設のオーナー)と堀元和豊先生(広野道場長)をお迎えし、少年部5組、一般部5組の演武、広野道場による賛助演武、師範演武を当道場にて行いました。少年部の保護者の方々が見守る中、日頃の稽古の成果を十分に発揮し、記憶に残る演武大会となりました。引き続き、場所をホテルブライテンティー京都山科に移して記念式典を開催しました。来賓に堀元和豊先生と名倉毅先生(当道場OB)をお迎えし、総勢17名の参加となりました。おいしい料理と楽しい合気道談義で2時間があっという間に過ぎました。最後に記念文集についてですが、道場生からの寄稿やアンケート等を募り、全24頁になる文集を作成しました。当道場の発展に尽力された故徳田雅紀先生、故高木比呂志先生の思い出の写真等もまとめております。

当道場の歴史は、まさに京都府合気道連盟会長である坂根道場長の歴史でもあります。前述の久心館道場の開設まで遡ると35年、道場長の合気道暦は54年にも及びます。今回、こういった歴史を振り返り、道場の今を知り、そして未来につなげていくことの大切さを共有できました。当道場にとって昨秋の周年行事は実り多きものであったと思います。

坂根道場長の指導の下で厳しさの中にも明るく楽しい合気道を目指して日々研鑽に励んでいます。お近くにお越しの際は是非、お立ち寄り下さい。

### ●嶋田雅宏(合気道吉照塾)

合気道吉照塾は亀岡市、綾部市、福知山市、舞鶴市を中心に活動している団体で、合気道精神を大切に日々稽古をしています。

昭和54年の亀岡大本内道場を皮切りに平成元年に綾部道場、平成13年に福知山道場、平成16年に舞鶴道場を開きました。

日々の稽古の他に、納涼会、忘年会、年二回の吉照塾合同稽古会等で塾生同士の交流を図り心技体の研鑽につとめています。

## New Publication

### 新刊書のご案内



合気道—稽古と心 (現代に生きる調和の武道)  
植芝守央 著 / 内外出版社刊

## 京都合気会指導員 梅井 工

第56回全国合気道演武大会は2018年5月26日、正午より午後5時30分まで日本武道館にて開催された。当日の東京都区部の平均気温は21℃、平均湿度63%、開会式が行なわれた正午であっても気温は24℃程度で天候は薄曇と、蒸し暑い事の多い例年に比べ、過ごし易い気候であった。演武参加人数は約8000名を数え、観客は1万人に達し、日本武道館の収容人数が1万4500人程度である事を考え合わせれば、ほぼ満席の盛況振りと謂えよう。

演武大会は二部構成となっており、開会式の後、関東学生合気道連盟の演武より第一部が始まった。基本的にこの全国合気道演武大会は各道場演武を各道場の指導者演武や本部道場の師範演武にて挟み込む形式によって実施されており、関東学生合気道連盟の演武の後は指導部師範演武が行なわれ、続いて各道場演武、その後、各道場の指導者演武、本部道場指導部指導員・指導部師範演武と続き、第一部の締め括りとして、本部道場長の自由演武が行なわれた。

第二部は北海道、東北、中部、関西、中・四国の学生連盟演武より開始された。この第二部には海外道場演武が行なわれている。合気道は海外でも盛んに行なわれ、現在では各道場の演武に海外の道友が参加している事も珍しくなくなったが、今次の演武大会では海外道場演武だけでもその参加者は160名を超えており、演武大会全体では400名を超える海外の道友が参加している。これは全参加者数の5%にあたる数字であり、今次大会以降も増加する事が予想される。

さて、第二部も後半となると本部道場指導部師範・本部道場師範・本部師範によるハイレベルな演武が展開される様になる。観客席の注視は、それまでは多少騒がしかった観客席に沈黙が広がって行く様が体感できる程に高まっていった。特に演武後の拍手が大きく多かったのが、本部道場師範・遠藤征四郎八段、本部師範・磯山博八段、本部師範・多田宏九段である。この三師範の演武に関しては特に段落を設けておきたい。

遠藤師範の演武は多人数掛けを主体としたものであったが、その動きは円転の理を誰にでも分かり易く形にして見せた動作であり、幾人が掛かろうとも無人の野を行くが如く身を進め、力と力を争わせないという合気道の理合を見事なまでに表現したものとなっていた。例年、遠藤師範の演武には常にこの傾向があるものの、特に今次大会の演武内容は合気道を修練する者であるならば、必ずその指標となるものであろう。

磯山師範は数年振りの全国演武大会での登台となったが、筆者は10数年前に始めてこの全国演武大会に参加した時の衝撃を忘れられない。それは磯山師範の演武で文字通り一人の人間が中空に引っ繰り返って飛ぶ様を目にしたからである。今次大会でもその技は健在で、丸く、柔らかく、鮮やかでもすれば武道である事を忘れそうになる演武が多い中、磯山師範の鋭く、厳しく、強烈な技は合気道が武道である事を万人に示



photo: Guillaume Erard

したものであろう。万雷の拍手も頷けるものである。技の構成は入り身投げを主体としたもので、磯山師範の腕を軸に受け取る側の身体が完全に180度縦方向に回転して頭頂より落下する。体捌きと呼吸力の修練によって人はそれ程の物理的作用を生み出す事が出来るという見本である。腕力では決してその様に作用させる事はできない。それは日々の稽古の中で全ての修練者が実感している事であろう。

多田師範の演武は別格である。これは全国演武大会に参加している者であるならば、誰もが納得するものであろう。まず、多田師範がアリーナに現れる、それだけで万雷の拍手が鳴り止まなくなる。通常は演武が終了した後に拍手は起こるものであるが、多田師範の演武が見る事ができるだけで満足だ、という観客がいかにも多いのが窺える。その演武の内容について、筆者は論評する程の実力を持ち合わせていないが、一つだけ述べる事があるとすれば、例年、多田師範が行なう「禊の剣」についてである。多田師範は演武に先立ち、木剣にて必ず八方を斬る。これは場を浄める意味を持ち、場にたち込めた邪気や穢れを祓う儀式である。合気道はただ敵を打ち破る事のみを目的とする武術ではなく、神道的理念を背景とした武道である事は道友全ての周知する所であろうが、それを的確に正しく理解、或いは他者に教授できる者が果してどれほど存在するであろうか。筆者は多田師範の講義を受けた経験があるが、多田師範は開祖の神道的理解を仏教的側面からも解釈し、かつそれは日本仏教に留まらず、インド哲学にも踏み込んだものであった。これはただ単に合気道の武の技法のみに焦点をあてた稽古を行なうのみではなく、その理念の部分にも踏み込み、かつ、それを一方向からだけでなく、多面的・多角的に考察する事の重要性を示している。多田師範が必ず禊の剣を行なう理由、それをもう一度、道兄道友全てが考察する必要があるのではないだろうか。



photo: Guillaume Erard

最後に、全国合気道演武大会の最後の次第について述べる。最後に行なわれるのは、植芝守央道主の総合演武である。道主は毎回必ず合気道の基本的な技を演武によって示す。即ち、立ち技、座り技、半身半立ち、武器取り、多人数掛けである。これらの技は合気道を代表する技法が含まれており、これ

らの動きを取り入れた稽古は常に念頭において合気道に臨むべきものである。近年、道主は講習会等において「当身」の重要性を盛んに説かれているが、今次の演武においても注意深く見ていけば、技の端々に当身を活用する拳動が含まれており、現代合気道が忘れつつある視点に道主が自ら警鐘を鳴らされている事が見て取れる。この点も日々の稽古において我々が留意しておかなければならない点であろう。

第56回全国合気道演武大会は盛況の内に幕を閉じた。海外参加者の増加、健在ぶりを示す諸師範方、道主の示される視点等、我々が学ぶべきものが多数ある演武会であった。ここで得た経験と質的・量的な理解を今後の稽古や研鑽の中で生かす事ができれば合気道人生は実り多いものになるであろう。



photo: Guillaume Erard

# Report

## 第三回 指導者講習会レポート 合気道京都 指導部 指導員 長谷川航

2月24日、25日と千葉県勝浦にある日本武道館にて合気会主催の指導者講習会に参加してきました。合気会による講習会の趣旨、参加資格は以下のように示されていました。

### 【趣旨】

国内外に於ける合気道の普及に伴い、幅広い年齢層に対応する指導力と多様化したニーズに応えられる指導者が必要不可欠となっている。公益財団法人合気会は、今後の更なる普及を見据え、将来指導者となる人材の育成のため、本部道場審査要項に基づいた指導法に関する実技と講義を行う。

### 【参加資格】

- (1) 道場・団体代表者が推薦する現指導者（または次期指導者と位置付けされる会員）
- (2) 段位は弐段から四段まで、年齢は40歳以下とする。

趣旨のとおり将来の指導者育成のための具体的な取り組み

です。大変、力のいれた講習会であることを全日程を通じて感じました。参加費と宿泊費も無料で、関西圏の私も交通費のみのお出費で参加することができました。

講習会の内容は道主による講演・稽古から始まり、入門から1級までの指導法を三人の本部指導部師範より手ほどきがあり、まとめとして植芝充央道場長による指導と、大変に充実した内容でした。また「頭部外傷の予防」についての講義もあり、指導者として最低限、知っておくべきことも学ぶことができました。

会期中の雰囲気は非常になごやかで道主、道場長をはじめ各師範の方々からも同じ目線に立って語りかけ、指導されていると感じました。参加者とも大部屋で過ごすことで、それぞれの合気道生活についてシェアすることができて、さまざまな環境で合気道の稽古がされているんだな、とあらためて思いました。講習会の最終日には参加者それぞれが「お互い稽古、頑張りましょう!!」と声をかけ合い、再会を約束しました。宿舎のご飯がとても美味しかったです。また来年も同時期でしたら、道場はとても寒いです。参加の方はご注意ください。



## 第六回 京都府合気道連盟講習会・演武会

日程：平成30年 9月9日（日）

場所：京都市武道センター 旧武徳殿

### 第1部 少年部

10:00～11:05 少年部合同稽古（指導：岡本洋子 合気道京都師範 六段）

11:15～11:45 少年部演武会

### 第2部 一般部

12:45～15:30 菅原 繁 師範特別講習会（本部道場指導部師範 七段）

### 第3部 演武会

15:45～16:30 京都府合気道連盟演武会

### 懇親会

17:30～19:30 龍門岡崎店（※要申し込み）

### 講習会費

連盟内 2000円 連盟外 3000円 少年部合同稽古 無料 懇親会 5000円

※菅原師範特別講習会の参加は中学生以上 ※少年部合同稽古の参加は小学生及び中学生